

業地、広島・久留米・熊本・伊豫等の大消費地へ向けられてゐた。電話のない當時の製品取引は極めて不便であつたが、緊急な取引上の通信は、次のやうな電信暗號コードを使用してその用を足してゐた。

交通電信暗號表

一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇
急ぎ出荷セヨ	積入セウカ	注文多イ有	残荷早ク積メ	値下ゲ模様	本 日	洋十二手	和 認	百	壹
指	特別値引	丈ケ	差引勘定面	値上ゲシタ	日 明	洋十三手	和 十番	千	貳
値定約スルカ	更正ス	正味値段	送金シタ	値下ゲシタ	紡大續會社阪	洋十四手	和 十一番	圓	參
品切レ荷	直チニ送	送金未着	成行値段ニテ至急出荷セヨ	積ム	紡天續會社滿玉	洋十五手	和 十二番	錢	四
大坂廻シ	物一時ニ出	荷承	送金手形受	金送	紡續會社紡續會社島岡	洋十六手	和 十二番半	月	五
積ム	來	知	手形不渡	ル	紡續會社山	洋十七手	和 十三番	日	六
再報頼ム	宛	六ケ敷	此頃ノ氣配知ラセ	荷積ンダ	電信ミタ	洋十八手	和 十三番半	洋一貫二百目 和一貫六百目 和洋四〇〇斤 和洋三〇〇斤	七
テ一先皆濟	内出荷スル	否ナ返事	賣行可也	荷物不着問	委細跡ヨリ手紙出ス	洋十九手	和 十四番	個 和十六玉 洋	八
出來次第	内出荷スル	品拂底急ニ	不 捌	行 違	手紙見タ	洋二十手	和 十四番半	和 十五番	九
又	積荷見合セ	取 交	昨今賣行活	積ナリ	値上ゲ模様	日	和 十五番	認	〇

縦横交又ノ角ヲ見ルベシ、「〇一」ハ壹ノ事、「九二九三」ハ千圓ノ事ナリ。此表ハ數字暗號ナルヲ以テ假名文字ノ混淆スルモ敢テ括弧ヲ要セズ。例ヘバ(和十三番十個送荷セヨ)ノ時ハ「八六〇〇九九三五」ノ如シ、(五拾梱荷物着シタ残荷早ク積メ)ハ「〇五〇〇九八五〇四一」此ノ場合ニ於テ冒頭「二〇」ハ差支ヘアレバ「ア〇五〇〇九八五〇四一」如此相願度

五分の處女配當を行つた。

二十二年下半年(自十月二十日至十二月三十日)操業日數五十九日

緑棉消費量 四〇、七〇九^圓七八〇^圓 五三、八九七^圓五三^圓

和製糸 二〇、四九七^圓二〇〇^圓 三八、七八四^圓八四^圓

石炭消費量 八五七^圓五四二^圓斤 二、二二九^圓三二^圓

職工人員 三六四名

純益金 四、七四三^圓七〇^圓

配當金 一株五拾圓ニ付壹圓六拾錢四厘、年一割五分

製品販路擴張と販賣特約店

わが社の製品の販路は、開業以來木村商務支配人の熱心なる開拓によつて漸次に擴張し、廣く大阪・中國・九州・四國の各方面に進出した。各地に設けられた販賣特約店の主なるものは左表の通りである。

得意先住所氏名一覽表

第一	大 阪	佐藤 榮八支店	博 多	渡邊 與三郎
	福山府中町	小 泉 半 七		
第二	廣 島 市	菅 林 兵 衛	赤 間 市	有 光 茂 吉
	尾道土堂町	小 西 退 藏	久留米市	青 沼 太 平